

## 議会風景



▶ 令和元4年6月 一般質問

▶ 同左

### ア ヱップサイクルの推進について

#### 質疑のポイント

- ☑ 「アップサイクル」とは、廃棄物にデザインやアイデアといった新たな付加価値を持たせ、別の新しい製品にアップグレードして生まれ変わらせる取り組み。
- ☑ 神戸市においても、地下鉄の座席をソファーにして販売する交通局の取り組みや、使用済みの防火服をカバンとして再生した消防局の取り組みがある。
- ☑ 市民への周知を含め、各局横断的な施策として推進するべきと考えるがどうか。

○ 久元市長：回収した PET ボトルキャップを民間企業と連携してベンチに再生したりプラスチックゴミをアート作品として活用するプラゴミ水族館などの取り組みがあるが、大変意義のある取り組みだと考えている。

このような活動に取り組む市民や NPO、事業者の情報などを発信するウェブサイト「GO GREEN KOBE」を活用し、神戸市在住のアップサイクルデザイナーの取り組みなど情報発信を行っている。

しかし、もっとこの考え方が全庁的に浸透していくことが大変大事であり、各局横断的な取り組みになるように、まず幹部の間でしっかり問題意識を共有をして、強力に取り組んでいきたい。



▶ 地下鉄座席がリビングソファーに



▶ 廃棄防火服がサコッシュに

### XR (クロスリアリティ) を活用したまちづくりについて

#### 質疑のポイント

- ☑ XRとは、仮想世界を現実のように体験できる「VR(仮想現実)」、現実世界に仮想世界を重ね合わせて体験できる「AR(拡張現実)」などの先端技術の総称。
- ☑ 国土交通省では、3D都市モデルを整備しオープンデータとして公開することで、自由に都市のデータを活用できるプロジェクト「PLATEAU」を進めている。
- ☑ XR技術は、データ分析やシミュレーションなど幅広い用途で防災・まちづくりに活用できると考えるがどうか。

○ 副市長：3D都市モデルは、防災や観光、都市景観、環境、交通、公共施設の維持管理など様々な行政分野での活用が期待される。

一方でその構築に際し、データ収集や個人情報への配慮、様々なデータ整備蓄積と定期的な更新など課題もあるが、動向を注視しながら活用可能性を検討していきたい。



▶ 商店街でARを体験  
AR City- ソラ水族館 -

★ 毎月末 市政報告会を開催しています。電話・メール等でご予約いただき、ぜひご参加ください。

いさやま大介事務所 〒657-0816 神戸市灘区国玉通 2-2-8 まどかビル 2階東

TEL : 070-1930-2368 FAX : 078-271-3707 mail : info@isayama-daisuke.jp

討議資料